

11月3日、4日の2日間、本学大学祭（みやこ祭）において本研究プロジェクトを学生や近隣住民の方々に紹介する「東京の海・山・島々に学ぶ」を開催しました。両日も晴天に恵まれ、国際交流会館前に構えたブースには終日多くの方々が訪れました。

ブース内ではポスターパネルを前に、我々の研究グループがこれまでに実施してきた各分野にわたる野外講義等について説明を行ないました。訪れた学生の方々に対しては、一般教養科目「生物学」や専門教育科目「社会人類学演習」「言語学演習」「生理学・発生生物学臨海実習」や多くの「大学院セミナー」が島々をキャンパスとして今夏開講された事等が紹介されました。これらの成果を踏まえて、来年度からは学部の一般教養科目（都市教養プログラム）として「学際的野外講義：自然と社会と文化」が新たに開講される予定です。詳細は本ホームページおよび2008年度シラバスをご覧ください。



写真1 実際の生物を顕微鏡で見せながら教育・研究を紹介



写真2 海に住む様々な生物たちから、私達は様々な事を学 び、研究をしています。動物の一部は、大島の漁師からも提供されました。

近隣住民の方々、一般の方々にはオープンユニバーシティの一講座として開講した野外講座「伊豆大島：自然と歴史と文学と」および「青梅・奥多摩：秩父多摩甲斐国立公園 御岳山」などを紹介するとともに、今後開催予定のオープンユニバーシティ野外講座のお知らせを行ないました。

写真3 大島町よりお借りした衣装でプロジェクトの説明 をするあんこ娘

今回の企画ではまた、伊豆大島の三原山や裏砂漠などの雄大な景色を写真パネルで展示するとともに大島ならではの食である天草、伊勢海老、アシタバ、クサヤや、青梅の地酒澤乃井など、食と酒の魅力も併せて紹介しました。





写真4 地酒澤乃井の利き酒。オープンユニバーシティ野外講座「青梅・奥多摩」では御岳山の山岳宗教、日本酒の文化もテーマのひとつです。



写真5 横浜・八景島シーパラダイスの協力で海の動物たちが展示されました。子供ばかりでなく大人たちもサメやヒトデやウニのタッチプールに大いに興奮していました。

東京が持つ広大な海洋とそこに展開する島々、奥多摩の山々をキャンパスとして、首都大学東京の教育を特徴づける教育プログラムを確立することが本プロジェクトの目的です。

(文責 黒川；生命科学教室)